

遠征日程： 2月10日（金）～12日（日）

場 所： 札幌ドーム

指導者：U-12 監督 菅原 則幸

コーチ 高橋 博泰 成田 智哉

## はじめに

大会日程は2月11日・12日で、札幌雪まつりの最終日にかさなりました。

JR釧路駅集合・解散でJRでの遠征となりました。

保護者のみなさんには、朝早、夜間の送迎をお願いし、大変なご負担をおかけしましたが、選手は有意義な遠征になったことと思っています。

また、宿舎が市電の行啓通り駅近くだったため、地下鉄と市電を乗り継いでの移動となり、加えて雪まつりの見学や札幌駅周辺の散策など、初めて体験する選手も多く、選手たちにとっては良い経験になったと思います。

## 試合での取り組み

チームテーマは、引き続き“ボールを奪う！ボールを失わない！ゴールを奪う！”です。

3つのテーマのなかでこれまで取り組んできた内容をあらためて選手に資料をみせて、選手個々に自ら取り組む課題を設定させ、試合に臨みました。



### 1日目試合の様子

1日目の対戦はVS苦小牧、VS小樽の2試合でした。どちらも0-1で敗戦。

これまでのトレセンの活動でDFの強化を図ってきたことから、ボールを奪うプレーは全道大会でも通用するものと考えていました。

監督のイメージとしては、守備でボールを奪うためのポジショニングをとり、早いアプローチの中で、インターセプトか相手のボールコントロールの瞬間を狙うか相手へ制限をかけるかの判断を即座にした1st DF（ファーストディフェンダー）が相手に襲い掛かり、その状況をみたオフザボールの選手がポジション変更やプレスバックをこない、常に相手ボールを囲い込み、波状攻撃のように相手ボールを奪いに行くという状況を想定していました。

選手にも十分にその思いは伝わっていたようで、選手個々の課題でも厳しい1st DFを上げている選手が多くいたため、ボールを奪ってからシンプルで効率的な縦攻撃を行うための攻守の切り替えとターゲットとなるFW選手及びサイドMF選手に相手DFとの駆け引きしながら2トップまたは3トップの形にするか両サイドからの攻撃を選択するのか状況に応じ判断することを指示していました。

試合の中でもボールを奪うDFはかなりの精度であったと思います。

しかし、相手ゴール前までボールを運ぶ攻めの展開はできても、シュートを決めきれない根室トレセンの課題である得点力不足がもどかしい試合展開をつくっていました。

結果はスコアーに表れています。

## 2日目試合の様子

予選3試合目は、札幌トレセンホワイトです。結果は0-8で敗退しブロック4位となりました。

苫小牧、小樽とも札幌との対戦が0-1であったため、前日の2試合でも攻守のバランスがよくなり、厳しい守備とカウンターやコンビネーション、サイドからの攻撃など精度を欠くところもありましたが十分に戦えるという思いでいました。

札幌の選手は走るのが早い選手が多く、体格差もあると考え、個の能力で勝負を減らし、高い位置でボール保持者に対する厳しい制限をすることで自由にパスを出させない状況をつくり相手の攻撃を封じたいという考えでいました。

相手パスに対する早いアプローチは選手全員が“必至に”というくらい全力でプレーし、インターセプトから攻撃への展開は効を奏していました。

しかし、マークに対し厳しいプレッシャーを与えることを徹底したため、内側を絞るポジショニングが甘くなり、ドリブル突破とショートカウンターでDFが走り負けて置き去りにされる展開で失点を重ねました。



ポジション取りを高くする要求したことから、バランスの悪いDFポジションとなり、DFの数的優位を常につくることができないのは致命的な采配だったと反省しました。

ブロック4位の対戦は北空知です。結果は0-2で本大会は全敗し6年生最後のトレセン大会を終えました。

最後の対戦は勝って帰ろうと意気込みのおりの試合展開でしたが、シュートがゴールネットを揺らすことはなく、逆に数少ない相手カウンターのロングパスの対応をミスし失点につなげ残念な結果となりました。

## 遠征中の様子と感想・・・

トレセンの6年生はさすがにテキパキと行動でき、初体験の地下鉄や市電で身動きができないほどの満員に遭遇しましたが、無難にこなしていました。

スケジュール変更も口頭で伝えるだけで対応でき、選手たちの成長ぶりが嬉しく感じました。

宿舎でのミーティングでは、自分の気持ちを伝えきれない選手が多いことに少し残念な思いが残りました。

学習会では、北海道チャレンジテストの国語と算数を2回分ずつ行いました。

一度はやっているはずのテストにかなりの苦戦をしている選手が多くいました。普段からもっとしっかり勉強しましょう！！



**根室トレセンU-12の選手の約束は、**

- 1 サッカーをできることの感謝の気持ちを保護者や関係する人に自分の言葉で伝える。
- 2 家族が喜ぶ“よいこと”をする。
- 3 家庭学習を学年×10分+10分を毎日する。 です。

中学校にいてもこの約束を続けてほしいと思います。

**最後に！**

これまでのトレセン活動にご理解とご協力をいただいた保護者、所属チームのみなさまありがとうございました。

6年生最後のトレセン活動の場をつくっていただいた、北海道サッカー協会の出口会長はじめ役員の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。